

平成22年度 経営協議会学外委員等からの意見と対応状況

番号	経営協議会	内容区分	学外委員等からの意見	本学の対応状況
1	第27回 H22.6.9	教育	ドクターをなかなか企業が採用しない理由は何なのかということが一つ問題になると思う。ドクターの教育をどうするのかを考え、他の大学との違いを出していければ、ドクターの採用が広がってくるのではないかと思う。	国際社会でリーダーシップを発揮する高度な人材の育成に向けて、平成23年4月から専門教育改革検討会を設置し、5年一貫的な教育プログラムの整備や副プログラムについての検討を開始した。 また、インターンシップ体験を博士育成の重要なステップとして捉え、博士後期課程学生全員がインターンシップを経験することを目標に、全学的に派遣強化策を進めることについて、学長からのメッセージとして、教員に対し周知するとともに、協力を依頼した。
2		研究	他機関では、大学を定年した人に研究が続けられるよう機関側の負担で居室を提供し、競争的資金を取ってくる環境を与えることで、活躍している人もいる。本学でも、そのような組織をつくるということも、大学の発展にもなり、日本のため、そして本人のためにもなると思う。	高等教育機関又は民間企業等において教育上又は学術上の顕著な業績があり、退職後に本学において研究及び教育の指導に携わることにより、本学における教育研究活動のより一層の推進・発展に貢献することが見込まれる者について、本学のシニアプロフェッサーとしてその活動を支援する制度を創設した。(平成23年4月施行)
3			今求められている機能というのは、年齢を問わず、競争的資金を取れている人が研究を続けることができる空間だと思う。大学は空間を用意するだけで、人件費や研究費を自分の才覚で取れるような人が、あるメンターのもとで研究を展開できるような空間が今非常に求められていると思う。その種の先行的な施設を開放的につくるということ自体が大学の活性化につながるのではないか。	
4		広報	JAISTの「ここが特徴なんだ」ということを認識してもらおう仕組みが必要。	本学の先進的な研究を広く周知するため、ホームページに特色ある研究を紹介するページを設けた。また、注目される研究成果を発表した教員については、定期的に顔写真入りでインタビュー記事を掲載することとした。
5	第28回 H22.9.16開催	教育	マスターは問題解決、ドクターは問題発見と昔から聞いているが、反対ではないかと思いはじめている。ポスドクは、ダブルメジャーでもいいが、専門を深めるために価値観の異なるところの副専攻をやったりして、視野を広げておいたら産業界とのつながりもよくなるのではないかと思う。	国際社会でリーダーシップを発揮する高度な人材の育成に向けて、平成23年4月から専門教育改革検討会を設置し、5年一貫的な教育プログラムの整備や副プログラムについての検討を開始した。
6			教育方法として、アメリカの大学のような5年一貫制というものをどこかで頭に置かなければならない気がする。全部リサーチ型というのではなく、大部分は企業に行くという前提で議論をしなければならない。	
7		国際化	海外の大学との連携については、セミナーを既に2年にわたってされており、そのネットワークを通し、海外からセミナーに参加した人達からの情報網をもとに、海外からの受験生も増えてきているのではないかと思う。これは最近、他大学も随分やるようになってきているが、ここで勝ち抜くことが非常に重要。こういう取り組みはまだ他にもあり得るが、ぜひ強化して足元から固めていくことが必要だろう。	平成23年3月にも世界各国から学生やポスドクを招き、本学の優れた研究成果に基づく先進的かつ特色あるテーマについて集中講義を行う国際先端スクールを実施し、海外の大学や研究機関との一層の連携強化に努めた。

番号	経営協議会	内容区分	学外委員等からの意見	本学の対応状況
8	第29回懇談会 H22.12.17開催	教育・研究	65歳以上でやる気があり、あまりお金を払わなくても活動してくれる人が結構いる。例えば、退職して金沢市に住んでいるような人に活動の場を提供することで、そういった人達をうまく使うことができるのではないかと。	(再掲) 高等教育機関又は民間企業等において教育上又は学術上の顕著な業績があり、退職後に本学において研究及び教育の指導に携わることにより、本学における教育研究活動のより一層の推進・発展に貢献することが見込まれる者について、本学のシニアプロフェッサーとしてその活動を支援する制度を創設した。(平成23年4月施行)
9			研究に熱中させるのは、先生の研究指導で、研究指導というのは結局教育である。授業のFDはいろいろとされているが、研究指導による教育のFDというのが不可欠ではないかと思うので、試みていただきたい。	大学院教育イニシアティブセンターにおいて教育力・研究指導力の向上を重点項目の一つに位置付け、積極的に活動に取り組む体制を整備した。